

大阪市立美術館だより

vol. 181

miwotsukushi

平成26年(2014)3月1日発行

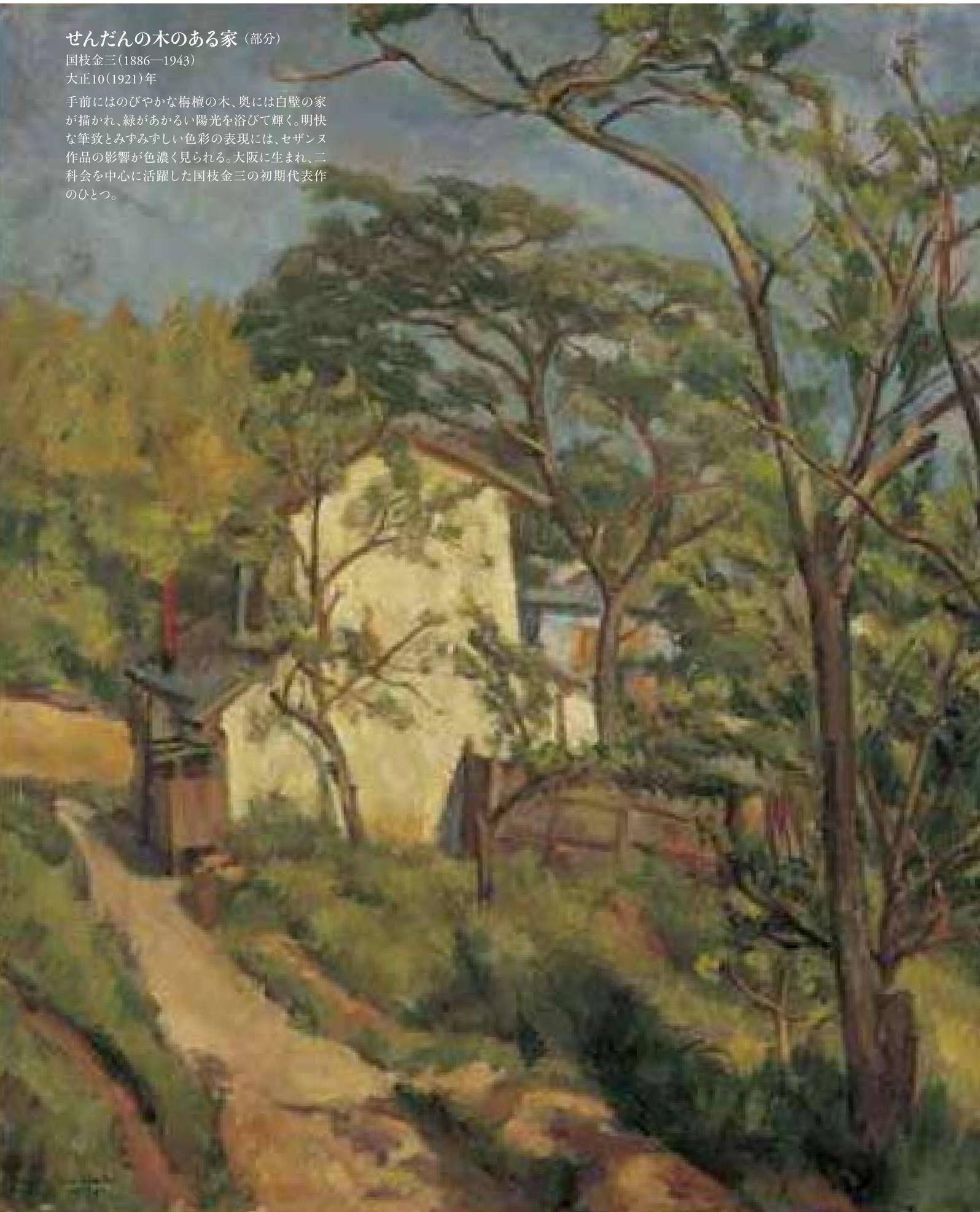
美をつくし

せんだんの木のある家 (部分)

国枝金三(1886—1943)

大正10(1921)年

手前にはのびやかな梅檀の木、奥には白壁の家が描かれ、緑があかるい陽光を浴びて輝く。明快な筆致とみずみずしい色彩の表現には、セザンヌ作品の影響が色濃く見られる。大阪に生まれ、二科会を中心に活躍した国枝金三の初期代表作のひとつ。



「紀伊山地の霊場と参詣道」世界遺産登録10周年記念

山の神仏 吉野・熊野・高野

2014年4月8日(火)―6月1日(日)

紀伊半島は本州最南端、和歌山・奈良・三重の三県にまたがる日本最大の半島です。中央には標高1000mをこえる山々が縦横に連なる紀伊山地が形成され、太平洋から吹きつける激しい風、日本有数の降水量に育まれた厳しくも豊かな自然の中で、古代より「聖なる山」として様々な信仰が息づいてきました。

その核となっているのが、役行者を開祖とする修験道の拠点「吉野・大峯」、全国に広がる熊野信仰の中心「熊野三山」、真言密教の根本道場「高野山」であり、これらを巡る「参詣道」を含め、2004年に「紀伊山地の霊場と参詣道」としてユネスコ世界遺産に登録されました。

吉野・大峯、熊野三山、高野山の三霊場は、参詣道を通じて有機的な繋がりを保ちつつ、それぞれ独自の文化圏を形成しています。一方で、日本固有の宗教である神道・修験道と中国・朝鮮半島から伝わった仏教が、併存あるいは融合し現在に至るという共通点が大きな特徴となっています。

世界遺産登録10周年を記念して開催する本展では、吉野・大峯、熊野三山、高野山の三霊場を中心にまつられ、篤い信仰をあつめる「神と仏」のすがたを一堂に展観いたします。



紙本着色 那智参詣曼荼羅図
室町時代 三重・津市神戸第一・第二自治会

記念講演会

- 4月12日(土)「熊野の神仏」朝日芳英氏(熊野那智大社宮司)
- 4月26日(土)「吉野・大峯の神仏」田中利典氏(金峯山修験本宗宗務総長)
- 5月17日(土)「高野山の神仏」山口文章氏(金剛峯寺宗務総長公室長)
- 5月24日(土)「紀伊山地の神仏をめぐる」齋藤龍一(当館主任学芸員)

◎時間: 午後1時30分―3時

◎会場: 大阪市立美術館1階講演会室

◎定員: 各150名



木造 大日如来坐像
平安時代 和歌山・金剛寺



木造 如意輪観音坐像
平安時代 奈良・鳳閣寺

豊臣家の哀しみ

政治・社会史、建築・庭園史、民俗・芸能史など、美術史を超えたさまざまな専門分野で洛中洛外図に関わる研究が進んでいる。近年はとくに、黒田日出男氏を代表者とする科学研究費補助金(科研)の研究プロジェクトが牽引役となり、江戸時代の洛中洛外図屏風研究に大きな進展が見受けられる。

当館では、平成20年度末に上記科研からの依頼により、旧蔵者にちなんで田万家旧蔵本と通称されてきた洛中洛外図屏風にかかる8×10ポジの新規撮影、並びに高精細画像データ(2000dpi)のコンテンツ蓄積に協力した。翌年には、一双画面の高精細画像閲覧専用システムをインストールしたディスクの作製、配布がなされた。描かれた事象の分析、読解の絶対量が不足している江戸時代洛中洛外図屏風のさらなる研究進展に寄与するものと期待している。

じきに桜のシーズンである。洛中洛外図を見ると、右隻の東山一帯に桜がキレイに咲いている。ひときわ目を引くスポットはやはり方広寺大仏殿と豊国社(写真上)。ぼかぼかした春の陽気に包まれてのどかに見えながら、ここは豊臣家の哀しみが深く刻み込まれた場所である。大仏殿の背後、豊国社参道入り口にはただモクモクと金雲が立ち込めているばかり。かつてそこに建っていたはずの壮麗な楼門と鳥居がないことに思いをいたしたい。鳥居のない豊国社は、もはや神にあらざる豊国大明神を意味している。

大仏殿の回廊と三十三間堂の間には、慶長19年(1614)6月に完成した鐘楼が立派に描かれ存在感を放っている(写真下)。豊臣家の命運を決したあの鐘が吊られて、今年でちょうど四百年である。この屏風の景観年代の上限として言及されることが多い目印だが、大仏殿のすぐ背後に描かれる五輪塔にも注目しよう。

これは豊臣家滅亡後、徳川家康が大仏殿境内に造立しよう沙汰を下した秀吉の墳墓である。豊国大明神の神号剥奪、豊国社社殿をはじめ社頭一円の破却に加え、阿弥陀カ峰山上の秀吉廟墓までも廃することを命じた家康の沙汰は非情極まるものだった。五輪塔の造立は元和2年(1616)8月頃のことと考えられ(『妙法院文書』)、これで屏風の景観年代上限が二年ほど後へずれることになる。

洛中洛外図でこの五輪塔を描く例は大変珍しく、当館所蔵のほかには「洛外図」(奈良県立美術館蔵)があるだけであろう。この「洛外図」には山上の秀吉廟墓まで描かれておりなお貴重である(河内将芳『秀吉の大仏造立』、法藏館)。江戸時代、秀吉の名をはばかってか、「馬塚」と俗称されたこの五輪塔は、明治10年に場所を移動し、豊国神社の宝物館裏手に今もひっそりとたたずんでいる。

また、大仏殿の南に接する妙法院の院家・日嚴院や、豊国社参道脇の智積院を金雲で覆い、その存在を明確に示さない点も珍しい描写といえる。廃絶となった豊国社および周辺寺地を家康から下げ渡され、一躍、恨めしいほどの大寺に変貌をとげた妙法院と



「洛中洛外図屏風」(当館蔵・田万コレクション)右隻部分



智積院である。この一帯からなるべく徳川色を忌避するよう求めた屏風発注者の意図によるものと深読みすれば、ことさらな秀吉墳墓の描写もうなずける。しかしながら、その具体的な事情、背景を今のところ想定するにはいたっていない。

若いころ、小さく写る建物の形、人の姿をなんとかもつとはっきり見れないものかと、洛中洛外図の写真図版に高倍率のルーペをあてて格闘したことを思い出す。近年は画像・情報機器の目覚ましい発達があり、より多くの人たちが、さまざまな方法で洛中洛外図へのアプローチを試みることができるようになった。実作品が近くにある身にとっても多とすべきを実感する。

なお、ここでふれた元和2年の景観年代上限について、左隻の描写を手掛かりとしてさらに下ることが判明した。詳しくは近刊の『大阪市立美術館紀要』第14号をご覧ください。

(知念理)



クロード・モネ 《玉房付の帽子を被ったミシェル・モネの肖像》
1880年 マルモッタン=モネ美術館
© The Bridgeman Art Library

こども展 名画にみるこどもと画家の絆

2014年7月19日(土)―10月13日(月・祝)

<http://www.ntv.co.jp/kodomo/>



ピエール=オーギュスト・ルノワール 《ジュリー・マネの肖像、あるいは猫を抱く子ども》
1887年 オルセー美術館
© RMN-Grand Palais (musée d'Orsay) / Hervé Lewandowski /
distributed by AMF - DNPpartcom

この展覧会はパリ・オランジュリー美術館で開催された展覧会“Les enfants modèles”（「モデルとなった子どもたち」と「模範的な子どもたち」のダブルネーミング）を日本向けに再構成したものです。

テーマは描かれた側=モデルとなった子どもの体験と、描いた側=子どもたちの親、または子どもたちと親しい関係にあった画家の想いです。画家に焦

点を当て、その技術や特徴を鑑賞するという従来の展覧会の枠組みを超えて、子どもたちの視線を通じて作品に秘められたメッセージやエピソードを読み解くという、絵画の新しい鑑賞方法を提案する画期的な展覧会となります。

モネ、ルノワール、ルソー、マティス、ピカソを始めとする19～20世紀の主にフランスで活躍した画家たち約50人による、およそ90点の作品が出展されます。オランジュリー美術館といえばモネの「睡蓮」の連作で有名ですが、そのモネが描いた次男のミシェルはまだ2歳、愛情あふれるタッチで描かれた可愛らしい姿です。ルノワールは自身の子どものみならず、交流の深かった印象派の女流画家ベルト・モリゾの娘、ジュリー・マネの8歳の猫を抱く姿を描いています。ルソーの作品は、彼が生涯に描いたと確認されている4枚の子どもの絵のうちの1点となる、たいへん貴重なものです。ドニが三男のフランソワ、通称アコがトランペットを吹く姿を描いた作品は、ドニ家が代々大切にしてきたもので、本展覧会の趣旨にご賛同頂いたご遺族の協力のもと、日本で初公開されることになりました。

こうした作品を通じて、「描く側=大人」たちは何を残そうとし、「描かれる側=子ども」たちは当時何を想ったのでしょうか。肖像画の変遷と時代の変化を辿りながら、作品に秘められた両者の想いに迫る本展に、どうぞご期待ください。



アンリ・ルソー 《人形を抱く子ども》
1904-05年頃 オランジュリー美術館
© RMN-Grand Palais (musée de l'Orangerie) /
Franck Raux / distributed by AMF - DNPpartcom



モーリス・ドニ 《トランペットを吹くアコ》
1919年 個人蔵
© Archives du catalogue raisonné MD
Photo: Olivier Goulet

寺社絵 — 神仏と人が交わる絵画

2014年6月24日(火)―7月6日(日) 7月19日(土)―8月31日(日)

寺社は神仏をまつる聖なる空間です。神仏と人が交わるには不思議な物語、美しい風景、厳かな儀礼を描く絵画が必要でした。縁起絵、名所絵、祭礼図、肖像画など、彩り豊かな寺社絵の世界をご鑑賞下さい。

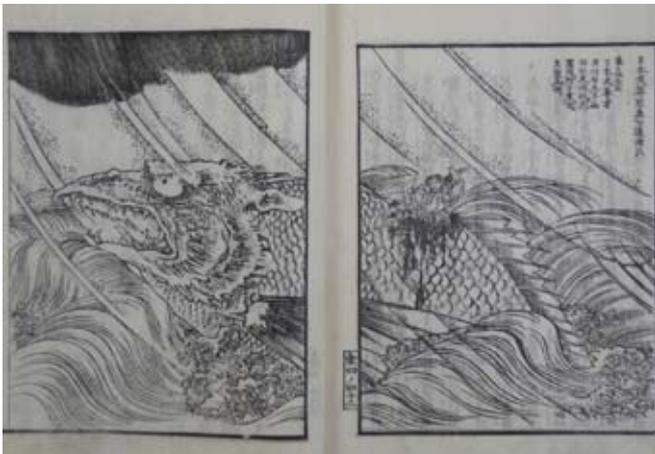


北野天神縁起絵(第四幅)・部分 南北朝時代・14世紀 京都・和東天満宮蔵

江戸の版本と百鬼夜行絵巻

2014年6月24日(火)―7月6日(日) 7月19日(土)―8月31日(日)

江戸時代も後期になると、出版文化は隆盛を極め、さまざまな版本が刊行されました。それらの版本の中には、絵師による本格的な挿絵も多く見られます。当館所蔵の原在中筆「百鬼夜行絵巻」とともに、少し怖くてどこか面白い版本の挿絵をご紹介します。



浦川公佐『金毘羅参詣名所図会』挿絵 江戸時代 弘化4年(1847)刊 個人蔵

煙管筒 明治・大正の細密工芸

2014年6月24日(火)―7月6日(日)
7月19日(土)―8月31日(日)

煙草入れ・煙管筒・根付・緒締は袋物商が中心になり様々な職人に依頼して作らせていました。明治になり廃刀令がでると腰帯に煙管筒を挿すことが流行します。この後、紙巻煙草が普及するまでの短い間ですが、煙管筒制作には様々な工芸家があり、技を競いました。



池田泰真(1817―1882)
宝尽し蒔絵煙管筒
如意に銭素地蒔絵煙管筒
光真銘



鍋井克之(1888―1969)「春の浜辺」 昭和6年(1931) 本館蔵(鍋井澄江氏寄贈)

ようこそ信濃橋洋画研究所

2014年6月24日(火)―7月6日(日) 7月19日(土)―8月31日(日)

大正13年(1924)、関西の洋画壇で活躍していた鍋井克之らによって信濃橋洋画研究所が設立されました。大阪における洋画研究の拠点として多くの画家を輩出し、展覧会を主催するなどの活動を行った研究所に焦点をあて、指導者の鍋井や国枝金三、そこで学んだ画家たちの作品をご紹介します。

工芸 かたちと文様

9月2日(火)―10月13日(月・祝)

原始から19世紀中頃までの中国と日本の金工品・陶磁器・漆工品を展示します。双方の地域の工芸品における器形や装飾など、影響関係の強弱をはじめ、相互の相違と関連性をお楽しみください。



錆絵 楼閣山水図火炉
尾形乾山(1663―1743)作
江戸時代(18世紀)
本館蔵



青銅 饗養文鼎
西周時代初期
(紀元前11―8世紀)
本館蔵

うた・ものがたりのデザイン

—日本工芸にみる「優雅」の伝統—

2014年10月28日(火)—12月7日(日)

日本の美術は、古来より文藝と密接に関わりながら多様な作品をつくりあげてきました。移ろいゆく自然や、人の心を表す和歌、源氏や伊勢の物語など、文芸は工芸デザインにも深く影響を与えています。本展では工芸に表された文芸意匠、とりわけ詩歌、物語、謡曲（能）に焦点をあて、料紙装飾・蒔絵調度・小袖・鏡や刀装具、陶磁器などを一堂に展観。日本の工芸に表れた優雅な造形を通して、日本文化のすばらしさを紹介いたします。



左/御所解文様小袖(源氏物語 若紫)
江戸時代 19世紀 株式会社 千總
小袖いっばいに広がる春の情景。咲き誇る桜、飛び立つ小鳥、御所車。光源氏18歳の晩春、病を患い京・北山の僧を訪ねます。桜の咲く山中の庵の小柴垣からかわいらしい少女を垣間見ました。少女の大切にしていた雀の子が逃げってしまったところでした。小袖に散りばめられた文様は、光源氏と紫の上の出会いを描いた源氏物語「若紫」の帖の一場面を表しています。源氏物語・若紫



右/夜桜蒔絵硯箱
江戸時代 17~18世紀
硯箱の蓋表には金銀の蒔絵で、月に桜の花が表されています。桜の幹には「あ」「た」「ら」の文字が描き込まれています。文字は平安時代の歌人、源信明(みなもとのかねあきら)の「あたら夜の月と花とをおなじくばあわれしられる人に見せばや」という和歌の一部です。明けるのが惜しい夜の月と桜を、思いの通じる人とともに見たいという歌意を文字とモチーフによって表す意匠です。後撰和歌集(巻三・あたら夜の)

展覧会スケジュール 平成26年(2014)年 3月—4月

は休室

3月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
特別展 特別陳列																															
コレクション展																															
美術団体展 (地下展覧会室)																															

4月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
特別展 特別陳列																														
コレクション展																														
美術団体展 (地下展覧会室)																														

平成26年(2014)年 5月—9月

5月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
特別展 特別陳列	特別展「紀伊山地の霊場と参詣道」世界遺産登録10周年記念 山の神仏—吉野・熊野・高野																														
コレクション展																															
美術団体展 (地下展覧会室)	日本南画院展 (1~4室)				研水会展(1・2室) 全関西行動美術展(3・4室)				和紙絵画和紙院展(1室) 竹翠会書道展(2室) 大阪美術協会日本画展(3・4室)				東光会関西展(1・2室) 公募元展(3・4室)				由源全国書道展 (1~4室)														

6月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
特別展 特別陳列	特別展「紀伊山地の霊場と参詣道」 世界遺産登録10周年記念 山の神仏—吉野・熊野・高野																							特別展 第60回全関西美術展						
コレクション展	寺社絵—神仏と人が交わる絵画 江戸の版本と百鬼夜行絵巻 煙管筒 明治・大正の細密工芸 ようこそ信濃橋洋画研究所																													
美術団体展 (地下展覧会室)	新世紀展(1・2室) 春陽展大阪展(3・4室)				国展(1~4室)				全国神融会書展併催公募展 (1・2室) 関西二紀展(3・4室)				日本書芸院六月展 (二科審査員)(1~4室)																	

7月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
特別展 特別陳列	特別展 第60回全関西美術展																		特別展 こども展 名画にみるこどもと画家の絆												
コレクション展	寺社絵—神仏と人が交わる絵画 江戸の版本と百鬼夜行絵巻 煙管筒 明治・大正の細密工芸 ようこそ信濃橋洋画研究所																		寺社絵—神仏と人が交わる絵画 江戸の版本と百鬼夜行絵巻 煙管筒 明治・大正の細密工芸 ようこそ信濃橋洋画研究所												
美術団体展 (地下展覧会室)	公募新美術協会展(1・2室) 墨滴会全国書展(3・4室)				二元展(1・2室) 五柳会公書展(3室) 現代水彩画展(4室)				旺玄会大阪展・関西旺玄会展 (1・2室) 現展関西展(3・4室)				日洋展大阪会場(1・2室) 創元展併催 大阪・三重支部展(3・4室)				大阪私学 美術展 (1~4室)														

8月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
特別展 特別陳列	特別展 こども展 名画にみるこどもと画家の絆																														
コレクション展	寺社絵—神仏と人が交わる絵画 江戸の版本と百鬼夜行絵巻 煙管筒 明治・大正の細密工芸 ようこそ信濃橋洋画研究所																														
美術団体展 (地下展覧会室)	大阪私学美術展 (1~4室)		子どもたちの讃歌展(1室) 泰山書道院展覧会(2室) 具現展(3室) 関西平和美術展(4室)				高校展(1~4室)				全日本高校・大学生書道展 (1~4室)				日本書道芸術院展(1・2室) 2014IFA展(3室) 研展(4室)																

9月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
特別展 特別陳列	特別展 こども展 名画にみるこどもと画家の絆 ~10/13																													
コレクション展	工芸 かたちと文様 (9/2~10/13)																													
美術団体展 (地下展覧会室)	現代パステル協会関西展(1・2室) 有秋会日本画展(3室) 三軌展写真部移動展(4室)				日本総合書道院展(1・2室) 現代南画展(3・4室)				美術文化展併催 関西美術文化展(1・2室) 新象展(3・4室)				創造展(1・2室) 青朝会日本水墨画展(3室) 全国硬筆作品展覧会(4室)																	

第60回 全関西美術展 日本画／洋画・版画／彫刻／工芸／書

会期＝6月24日(火)ー7月6日(日) 観覧料＝一般700円(団体600円) 高大生500円(団体400円)

大阪市立美術館・その他事業のご案内

美術研究所

昭和21年に創設され、公立施設としては他に類をみないユニークな専門教育機関としてスタートしました。素描・絵画・彫塑の実技研究の事業を行っています。入所者はまず石膏素描前期からスタートし、年6回ある実技コンクールに合格した者が石膏素描後期、人体素描、絵画、又は彫塑へ順次進級していきます。入所検定は、入所希望者に対して年4回(4月、7月、10月、1月)実施します。入所検定申込書をご希望の方は、90円切手を貼った封筒(長形3号)を同封し、入所検定申込書希望とお書き添えの上、大阪市立美術館「美術研究所」宛てにお送りください。

◎入所検定:「入所検定申込書」に検定料3,600円を添えて検定実施当日にご持参ください。合否の結果は、別途郵送にて通知します。検定要領は、大阪市立美術館「美術研究所」までお問い合わせください。tel.06-6771-4874

◎入所料:5,400円

入所時には入所料と研究料(3ヵ月分)合計26,400円を前納してください。

◎研究料:月額研究料(石膏前期・後期・絵画7,000円/人体・彫塑11,000円)

毎月の研究料は前月末までに納付してください。

◎平成26年度入所検定予定日:平成26年3月28日(金)、6月27日(金)、9月26日(金)、平成27年1月16日(金)

友の会

◎随時会員募集中!

“FINE ARTの世界へご案内します”

友の会では、日曜日に石膏、裸婦、人物コスチューム、静物の日曜洋画会(絵画等の制作)を開催しています。料金は一日当たり、石膏デッサン800円、人体モデル・静物1,500円のチケット制(5枚綴り・バラ売り不可)で、別途モデル料(コスチューム300円、裸婦500円)が必要です。

◎年会費:一般4,000円/学生3,000円

◎特典:大阪市立美術館での展覧会鑑賞の優待だけでなく、2ヵ月毎に美術館展覧会に関する情報満載の「友の会ニュース」を配送しています。

◎お問合せ: tel./fax. 06-6779-9288

e-mail: tomonokai@osaka-art-museum.jp

図録販売

主な館蔵品図録

「住友コレクションの近代日本画」 2004年 700円

「中国彫刻 小野順造コレクション」 2005年 1,700円

「富本憲吉の世界」 2010年 1,300円

「壺のなかの小さな世界」 2013年 1,300円

「大阪市立美術館 山口コレクション中国彫刻」 2013年 1,800円

過去に開催された特別展の図録を中心に販売しています。美術館開館中は、来館者向けに美術館1階のミュージアムショップで販売しております。なお、希望者には宅配も受け付けています。宅配を希望される方は、購入希望の図録名と図録の代金・梱包料(専用箱代)を現金書留にて美術館あてに郵送してください。確認出来ましたら、着払いにて図録を送付致します。現金書留にて郵送いただく前に、お手数ですが、必ず美術館あてに在庫についてお問い合わせください。◎問合せ・宛先: tel. 06-6771-4874 大阪市立美術館総務課 〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町1-82 大阪市立美術館

●特別陳列 観覧料

一般500円(団体400円)、高大生400円(団体300円)

●コレクション展 観覧料(特集展示を含む)

一般300円(団体150円)、高大生200円(団体100円)
中学生以下・障がい者手帳等をお持ちの方は無料。団体料金は20名以上。

※大阪市内在住の65歳以上の方はコレクション展・特別陳列は無料(要証明)

※特別展は別料金。特別展併設時は特別展観覧料でコレクション展もご覧いただけます。

※平成25年度より平常展はコレクション展という名称に変わりました。

●休館日

月曜日(祝日の場合はその翌平日)、展示替え期間、年末年始。災害などにより臨時で休館となる場合があります。

●開館時間

午前9時30分ー午後5時(入館は4時30分まで)



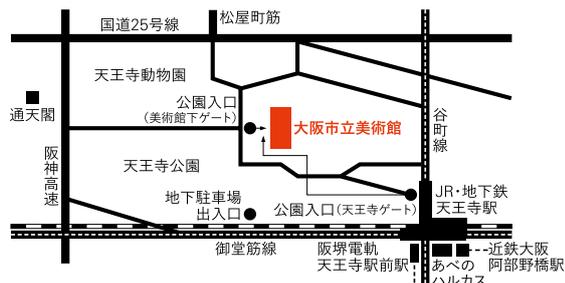
大阪市立美術館 天王寺公園内

Osaka City Museum of Fine Arts

〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町1-82

tel. 06-6771-4874 fax. 06-6771-4856

http://www.osaka-art-museum.jp



交通案内:地下鉄御堂筋線・谷町線、JR「天王寺」、近鉄南大阪線「大阪阿部野橋」、阪堺電軌上町線「天王寺駅前」下車、または市バス「あべの橋」下車、北西へ400m